

松川事件

1949年(昭和24年)8月17日午前3時9分頃、福島県信夫郡金谷川村(現・福島市松川町金沢)を通過中だった青森発上野行き上り列車が突如脱線転覆。機関車の乗務員3名が死亡しました。何者かの手によって引き起こされたこの「松川事件」は、戦後の不安定な社会情勢も相まって数奇な展開を見せます。冤罪による死刑判決や真犯人の行方など、多くの物議と謎を呼んだこの歴史的な事件について、当館に所蔵されている資料をまとめました。

Rがついている資料は、貸出しておりませんので図書館の中でご覧ください。

松川事件のあらまし

| | | | | |
|---|-----------------------|----------------------|---------|--------------|
| 松川事件謎の累積 | 日向康／著 | 社会思想社 | 1992 | L327.8/H3/2 |
| 事件の起こりから調査の進み、裁判の内容まで、松川事件の全容をまとめた1冊です。警察・検査も含めた事件関係者の証言や、裁判における発言の記録が細かく記されています。 | | | | |
| 松川事件と平事件のナゾ(歴春ふくしま文庫) | 伊部正之／著 | 歴史春秋出版 | 2001.12 | L081.6/R1/71 |
| 福島大学の教授として松川事件資料の収集整備に携わった著者が、松川事件の一連の流れ、真犯人の謎について図や写真を交えながら分かりやすく説明した資料です。 | | | | |
| 真実は壁を透して | 松川文集編集委員会／編 | 月曜書房 | 1951 | L915.9/M1/1 |
| 1951年12月、被告たちが福島地裁による有罪判決を受けた後に刊行されたものです。被告20名全員による詩や手記・救援を求める文書などが掲載されています。作家・広津和郎はこの本を読んで被告たちの無罪を確信し、裁判批判へ身を投じていくこととなります。 | | | | |
| 愛情は壁を透して 松川事件文集 | 松川文集編集委員会／編 | 月曜書房 | 1954 | L915.9/M1/1 |
| 松川事件の被告たちと、その家族が出しあった手紙をまとめたものです。無罪を訴えて戦い続ける被告たちの姿と、被告たちを信じて励まし続ける家族の姿が垣間見えます。 | | | | |
| 時評 松川事件 | 井上清／[編] | 岩波書店 | 1953.9 | L327.8/I4/1 |
| 松川事件について | 歴史学研究会／[編] | 岩波書店 | 1954.2 | L327.8/R1/1 |
| 松川事件 真実の勝利のために | 松川事件対策委員会／[編] | 松川事件対策委員会 | 1956 | L327.8/M5/2 |
| 松川事件 真昼の暗黒 | 山田清三郎／著 | 三一書房 | 1956 | L915.9/Y1 |
| 世にも不思議な松川事件 | 松川事件対策委員会／編 | 松川事件対策委員会 | 1958 | L327.8/M5/1 |
| 松川事件 | 北条秀司／著 | 青蛙房 | 1964 | 912.6/H2/2-6 |
| ドキュメント日本人 第10 法にふれた人 | | 学芸書林 | 1969 | 281.08/D/10 |
| 東京起点261キロ 松川事件・ある青春物語 | 稲沢潤子／著 | 恒和出版 | 1979 | L327.8/I1/1 |
| 下山・三鷹・松川事件と日本共産党 | 佐藤一／著 | 三一書房 | 1982 | L210.7/S1/1 |
| 松川事件資料目録 | 福島大学松川資料室／編 | 福島大学 | 1989 | L327.8/F1/1 |
| 松川事件 | 松川運動記念会／[編] | 松川運動記念会 | 1995.9 | L327.8/M8/3 |
| 松川事件・真実の証明 | 高田光子／著 | 八朔社 | 1997.4 | L327.8/T2 |
| 松川事件はなぜ起こされたか | 伊部正之／著 | JR東労組「8.17松川集会」実行委員会 | 1999 | L327.8/I3/1 |
| 隠されたか、日本の恥部 ゴルゲ事件 三鷹事件 松川事件 下山事件 | 中山雅城／著 | 文芸社 | 1999 | L210.7/N3/1 |
| いまに生きる松川 松川事件50周年記念文集 | 『いまに生きる松川』編集委員会／編 | 松川運動記念会 | 2000 | L327.8/M8/1 |
| 松川事件五〇年 | 福島県松川運動記念会／編 | あゆみ出版 | 1999.8 | L327.8/F3/1 |
| 私たちの松川事件 無罪確定から25年松川事件が現代に訴えるもの | 松川事件無罪確定25周年記念出版委員会／編 | 現代人文社 | 1999.8 | L327.8/O3/2 |
| 松川事件六〇年の語り部 | 堀越作治／著 | 東京図書出版会 | 2011.3 | L327.8/H6/1 |

松川裁判

1950年(昭和25年)12月6日・福島地裁による一審判決:被告20人全員が有罪(うち死刑5人)。
 1953年(昭和28年)12月22日・仙台高裁による二審判決:17人が有罪(うち死刑4人)、3人が無罪。
 1959年(昭和34年)8月10日・最高裁、二審判決を破棄。仙台高裁に差し戻し。
 1961年(昭和36年)8月8日・仙台高裁での差し戻し審で被告全員に無罪判決。
 1963年(昭和38年)9月12日・最高裁、検察側による再上告を棄却。被告全員の無罪が確定しました。

| | | | | |
|---|--------|------|--------|-------------|
| 松川裁判から、いま何を学ぶか 戦後最大の冤罪事件の全容 | 伊部正之／著 | 岩波書店 | 2009.1 | L327.8/I3/3 |
| 14年間に渡って行われた松川裁判の内容や裁判批判・救援に関わった人々の活動、無罪判決後も行われた国家賠償請求裁判等について仔細に書かれた1冊です。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|--------------------|---------------|---------|-------------|
| R | 松川事件控訴審判決要旨(『ジュリスト』50号別冊附録) | 有斐閣／編 | 有斐閣 | 1954 | L327.8/Y1/2 |
| R | 真実の叫び 松川事件の公正な判決を | 東北地方松川対策協議会／[編] | 東北地方松川対策協議会 | 1955 | L327.8/T3/1 |
| R | 二十人の被告たち 松川事件真実の証言 | 山田清三郎／著 | 新読書社出版部 | 1958 | L327.8/Y3/1 |
| R | 時評「松川事件」とその裁判 最高裁における口頭辯論を前にして | 歴史学研究会／[編] | 岩波書店 | 1958 | L327.8/R1/2 |
| R | 松川裁判特別号 中央公論緊急増刊 | 中央公論社／編 | 中央公論社 | 1958 | L327.8/C1/1 |
| R | 松川事件上告審判決全文 | 判例時報刊行会／編 | 日本評論新社 | 1958 | L327.8/H5/1 |
| R | 松川事件(『ジュリスト』臨時増刊号) | 有斐閣／編 | 有斐閣 | 1959 | L327.8/Y1/1 |
| R | 松川事件差戻審公判記録 七 | | [出版者不明] | [出版年不明] | L327.8/M3/1 |
| R | 松川事件判決全文 差戻後の第二審判決 | 判例時報刊行会／編 | 日本評論新社 | 1961 | L327.8/H5/2 |
| R | 松川事件無罪判決特集(『ジュリスト』No.239) | 有斐閣／編 | 有斐閣 | 1961 | L327.8/Y1/3 |
| R | 被告人鈴木信外一六名に対する汽車転覆致死被告事件(松川事件)の判決主文及び理由の要旨 | 福島県松川事件対策協議会／著 | 福島県松川事件対策協議会 | 1961 | SD210.7/F1 |
| R | 松川事件再上告審判決 | 判例時報刊行会／編 | 日本評論新社 | 1963 | L327.8/H5/3 |
| R | 特集・松川事件最終判決(『ジュリスト』No.284) | 有斐閣／編 | 有斐閣 | 1963 | L327.8/Y1/4 |
| | 松川裁判と松川運動に関する資料目録 | | 法政大学大原社会問題研究所 | 1971 | L327.8/O1/1 |
| | 戦後政治裁判史録 1 | 田中二郎, 佐藤功, 野村二郎／編集 | 第一法規出版 | 1980 | 312.1/S17/1 |
| | 松川事件と人間 | 呑川泰司／著 | あゆみ出版 | 1999 | L327.8/N3/1 |
| R | 権力犯罪の追求 松川事件国家賠償裁判 | 松川運動記念会／[編] | 松川運動記念会 | 2000 | L327.8/I3/2 |
| R | 戦後謀略事件の背景と下山・三鷹・松川事件 | 伊部正之／著 | 松川運動記念会 | 2007 | L327.8/I3/2 |

松川裁判に関わった人々に関する図書

<主任弁護士・大塚一男>

弱冠24歳にして松川事件の主任弁護士となり、14年間の裁判を闘い抜いた大塚弁護士。壮年に差し掛かってから当時を振り返る多くの著書を残しています。

| | | | | |
|--|--------|-----|------|-------------|
| 松川弁護十四年 松川裁判の意義を改めて問う! | 大塚一男／著 | 晩声社 | 1984 | L327.8/O2/1 |
| 裁判の問題点や検察の横暴など、14年間の松川裁判が暴き出した問題を強く糾弾した1冊です。 | | | | |

| | | | | |
|--|--------|-------|------|-------------|
| 回想の松川弁護 | 大塚一男／著 | 日本評論社 | 2009 | L327.8/O2/6 |
| 事件から60年経った2009年に書かれた、著者最後の著作。大塚氏はこの本が出版された2年後、86歳でこの世を去りました。 | | | | |

| | | | | | |
|---|--|---------|------------|------|-------------|
| | 最高裁調査官報告書 | 大塚一男／著 | 筑摩書房 | 1986 | L327.8/O2/2 |
| R | 松川事件調査官報告書 | 大塚一男／編著 | 日本評論社 | 1988 | L327.8/O2/5 |
| | 私記松川事件弁護団史 | 大塚一男／著 | 日本評論社 | 1989 | L327.8/O2/3 |
| R | 松川事件と「散文精神」 事件発生から五十年によせて(『民主文学』No. 407) | 大塚一男／談 | 日本民主主義文学同盟 | 1999 | L327.8/O2/4 |

< 弁護士・上田誠吉, 後藤昌次郎 >

| | | | | |
|--|-----------------|------|------|----------------|
| 誤まった裁判 八つの刑事事件 | 上田誠吉, 後藤昌次郎 / 著 | 岩波書店 | 1960 | L327.61/ウマ1960 |
| 松川事件を担当した弁護士2名による、松川事件を含む8つの事件に関する記録です。著者らが裁判を誤審だと判断した論拠となる事実について丹念に記録しています。 | | | | |

< 弁護士・安田覚治 >

| | | | | |
|--|----------|-------------------------------|------|-------------|
| 松川事件と安田覚治 | 安田純治 / 著 | 治安維持法犠牲者 国家賠償要求同盟 福島県支部 | 1989 | L327.8/Y2/1 |
| 安田覚治氏は松川事件の弁護士をつとめた人物で、無罪の決め手となった「諏訪メモ」に関わっています。 | | | | |

< 弁護士・今井敬弥 >

| | | | | |
|--|----------|-------|------|---------------|
| 私の松川事件 | 今井敬弥 / 著 | 日本評論社 | 1999 | L327.8/I2/1-1 |
| 松川弁護団の仲でも最年少の弁護士として、「諏訪メモ」を担当した著者の回顧録です。 | | | | |

< 差し戻し控訴審裁判長・門田実 >

| | | | | |
|--|---------|-------|------|-------------|
| 松川裁判の思い出 | 門田実 / 著 | 朝日新聞社 | 1972 | L327.8/M4/1 |
| 裁判長としては唯一、当時の記録を著書として残した人物です。判決に臨む心境等が綴られています。 | | | | |

真犯人に関する考察

| | | | | |
|---|----------|--------|------|-------------|
| 松川事件の犯人を追って | 大野達三 / 著 | 新日本出版社 | 1991 | L210.7/O1/1 |
| 当時のアメリカの諜報機関CIC(Counterintelligence Corps)=対敵情報部隊の謀略説をとっています。 | | | | |

| | | | | |
|--------------------------|-----------|-----|------|-------------|
| 松川事件の真犯人 | 吉原公一郎 / 著 | 祥伝社 | 2007 | L327.8/Y4/2 |
| アメリカの諜報機関CIAの陰謀説をとっています。 | | | | |

| | | | | |
|-----------------------------------|----------|--------|------|--------------|
| 謀略 再び歴史の舞台に登場する松川事件 | 松本善明 / 著 | 新日本出版社 | 2013 | L327.8/M11/1 |
| 『松川事件の犯人を追って』と同じく、CICの謀略説をとっています。 | | | | |

松川裁判と作家・広津和郎

作家・文芸評論家として知られる広津和郎は、被告たちの文集『真実は壁を透して』を読んだことをきっかけに彼らの無実を確信し、「松川事件対策協議会」の会長として、裁判に対する言論運動を繰り広げました。

| | | | | |
|---|----------|-----|------|--------------|
| 松川裁判 新版 | 広津和郎 / 著 | 木鶏社 | 2007 | L327.8/H1/10 |
| 調書や公判記録を綿密に調べ、被告や証人と裁判官・検察官・弁護士との質疑応答を一つ一つ検証した大作です。詳しい年表や見取り図も付属しており、誰にでも松川事件・裁判の全貌が分かりやすくなっています。 | | | | |

| | | | | | |
|---|---------------------------|----------|-------|------|---------------|
| R | 松川事件のうちそと | 広津和郎 / 著 | 光書房 | 1959 | L327.8/H1/3 |
| | 松川裁判の問題点 | 広津和郎 / 著 | 中央公論社 | 1959 | L327.8/H1/4 |
| | 松川事件と裁判 | 広津和郎 / 著 | 岩波書店 | 1964 | L327.8/H1/5 |
| | 広津和郎全集 10巻(『松川裁判』収録) | 広津和郎 / 著 | 中央公論社 | 1973 | 918.6/H7/1-10 |
| | 広津和郎全集 11巻(評論『真実は訴える』等収録) | 広津和郎 / 著 | 中央公論社 | 1974 | 918.6/H7/1-11 |
| | 裁判と国民 上 | 広津和郎 / 著 | 星雲社 | 1981 | L327.8/H1/6-1 |
| | 裁判と国民 下 | 広津和郎 / 著 | 広松書店 | 1981 | L327.8/H1/6-2 |

文学者から見た松川事件

| | | | | |
|---|-------------|--------|------|----------------|
| 世にも不思議な物語 私の見た松川事件 | 宇野浩二／著 | 講談社 | 1953 | L915.9/U1/1 |
| 広津和郎に『真実は壁を透して』を見せ、彼が松川事件に対する言論活動に身を投じるきっかけを作った著者が、松川事件に関わった成り行きや裁判に対する考察をまとめた1冊です。 | | | | |
| 日本の黒い霧 | 松本清張／著 | 文芸春秋新社 | 1962 | 913.6/M28/2 |
| 作家・松本清張が、戦後日本で起きた怪事件の数々に迫った1冊。「推理・松川事件」の項で、松川事件にふれています。 | | | | |
| 大岡昇平全集 15 「松川裁判に思う」 | 大江健三郎／〔ほか〕編 | 筑摩書房 | 1996 | 918.6/O15/2-15 |
| 中野重治全集 第13巻 「松川事件とローゼンバーグ事件」 | 中野重治／著 | 筑摩書房 | 1997 | 918.68/N7/13 |
| 志賀直哉全集 第9巻 「松川事件と広津君」 | 志賀直哉／著 | 岩波書店 | 2000 | 918.68/S5 |
| 松田解子自選集 第8巻 とりもどした瞳 「松川事件被告と家族をたずねて」「松川控訴判決の日」 | 松田解子／作 | 沢田出版 | 2008 | 918.68/マト045/8 |
| 安部公房全集 030 「映画化する松川事件」 | 安部公房／著 | 新潮社 | 2009 | 918.68/A1/30 |

松川事件と並ぶ「国鉄3大ミステリー事件」～下山事件・三鷹事件～

<下山事件>

1949年(昭和24年)7月5日朝、国鉄総裁下山定則氏が出勤途中で失踪、翌日未明に汽車に轢断された遺体となって発見された事件です。自殺説・他殺説など様々な推論がなされましたが、解決されないまま迷宮入りしました。


| | | | | |
|---|-----------|------------|------|--------------|
| 生体れき断 下山事件の真相 | 平正一／著 | 毎日学生出版社 | 1964 | 916/T24 |
| 資料・下山事件 | 下山事件研究会／編 | みすず書房 | 1969 | 210.77/S |
| 死の法医学 下山事件再考 北大選書 12 | 錫谷徹／著 | 北海道大学図書刊行会 | 1983 | 498.9/S3 |
| 夢追い人よ | 斎藤茂男／著 | 築地書館 | 1989 | L327.8/S1/1 |
| 下山事件(ケース) | 森達也／著 | 新潮社 | 2004 | 326.23/モ042 |
| 謀殺下山事件 新風舎文庫 | 矢田喜美雄／著 | 新風舎 | 2004 | 326.23/ヤキ043 |
| 下山事件 最後の証言 | 柴田哲孝／著 | 祥伝社 | 2005 | 326.23/シテ057 |
| 「下山事件」謀略論の歴史 「原光景」的イメージから 「動物化」した謀略論 | 佐藤 一／著 | 彩流社 | 2009 | 326.23/サハ099 |

<三鷹事件>

1949年(昭和24年)7月15日午後8時23分、国鉄三鷹車庫(現・三鷹車両センター)から7両編成の無人電車が暴走。三鷹駅の下り1番線に進入した後、時速60km程のスピードで車止めを突き破った後脱線転覆し、事故に巻き込まれた6名が死亡しました。元運転士・竹内景助が犯人として死刑判決を受けながらも無実を訴え続けましたが、死刑執行前に脳腫瘍のため獄死しました。

| | | | | |
|--------------------------|----------------|----------|------|-------------|
| R 三鷹事件判決全文 | 日本評論社法律時報編集部／編 | 日本評論社 | 1950 | HO326.21/N1 |
| 三鷹事件 かくされた戦後史の謎 三一新書 584 | 小松良郎／著 | 三一書房 | 1967 | 210.77/K |
| 三鷹事件 1949年夏に何が起きたのか | 片島紀男／著 | 日本放送出版協会 | 1999 | 326.22/K1 |

関連ホームページ

| | |
|--|---|
| 福島大学松川資料室 |  http://www.matsukawaiiken.com/ |
| 福島大学内にある、松川事件・松川裁判・松川運動に関する様々な分野の資料、さらに関連する周辺事件や時代背景に関連する資料など約10万点が収蔵、展示されている資料室のホームページです。事件のあらましや収蔵資料の検索などをすることができます。 | |